

1. 学歴

- 1974年 3月 一橋大学商学部卒業
1974年 4月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程進学
1976年 3月 同修了
1976年 4月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程進学
1977年 10月 カイロ大学留学 (1979年6月まで)
1980年 3月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得
1982年 12月 カイロ大学留学 (1984年12月まで)
1983年 12月 一橋大学大学院経済学研究科より博士号を取得

2. 職歴・研究歴

- 1980年 4月 東京大学東洋文化研究所助手
1985年 4月 東洋大学文学部 (教養課程) 人文科学科専任講師
1988年 4月 同助教授
1990年 4月 一橋大学経済学部助教授
1991年 4月 一橋大学経済学部教授
1993年 4月 日本学術振興会カイロ研究連絡センター派遣員 (1994年3月まで)
1997年 4月 国立民族学博物館地域研究企画交流センター教授 (併任) (2002年3月まで)
1998年 4月 一橋大学大学院経済学研究科, 経済学部教授, 現在に至る

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済史入門, 基礎講義, 地域研究の方法, アジア経済概論, 地域経済概論

(b) 大学院

地域研究方法論, 西アジア経済論, 西アジア経済特論, ワークショップ, リサーチ・ワークショップ

B. ゼミナール

学部前期 (教養ゼミ, 基礎ゼミ), 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

前期学部生向けの講義では, 経済現象や経済制度を歴史的な視角から分析する態度を養うことを目的としている。「事実は小説より奇なり」であり, 歴史抜きに今日と将来はないからである。後期学部生向けの講義では, ともすれば偏見をもってみられがちな中東イスラム世界における経済生活を, 実証的かつ分析的に, そしてほかのアジア地域との比較のなかで, 解説することを目的としている。大学院生向けの講義では, 中東イスラム経済の歴史と現状

を分析するために有用な理論枠を検討することを目的としている。学部のゼミナールで扱うテーマは中東を中心としたイスラム世界の政治・経済・社会・文化システムであるが、教育の基本方針は、中東を独自の完結した世界とは捉えず、ヨーロッパ・地中海世界、インド、中国などのアジア世界との関係、比較のなかで考察することである。3 年次にはテキストの輪読と討議によって、4 年次には卒業論文の指導を中心にして、ゼミを進める。大学院生のゼミナールでは、それぞれの学生の問題関心と研究テーマに応じた専門的知識と分析手段を、テキストの輪読と討議のなかで習得できるように努めている。

4. 主な研究テーマ

- (1) エジプト社会経済史: 刊行・未刊行法令・文書を駆使し、土地制度を中心に、近代エジプトの社会経済事情を明らかにした。成果は、博士論文を核に構成された『私的土地所有権とエジプト社会』(創文社, 1993 年)である。
- (2) エジプト社会史: 文書資料と聞き取り調査結果の突合せによって、近現代におけるエジプト農村社会の変容を多角的に分析した。成果は、『アブー・スィネータ村の醜聞-裁判文書からみたエジプトの村社会』(創文社, 1997 年) である。同じ手法を近代エジプトの遊牧民社会に適用し、さまざまに性格を異にする資料を駆使することで、19 世紀中葉における「忘れ去られた」遊牧民反乱を復元し、エジプト近代の裏面史を追求した。成果は、「砂漠に消えた「革命」 近代エジプトの遊牧民「革命」」(『地域研究論集』1, 1997 年), "The Bedouin in Egyptian National Identity: Minority or Vagabond?" (JCAS Symposium Series 5, 2001) などである。
- (3) イスラム文明論・イスラム地域研究: 中東を中心としたイスラム世界の政治、経済、社会、文化を文明史的観点から多角的に分析した。その成果は、『文明としてのイスラム-多元的社会叙述の試み』(東京大学出版会, 1995 年), 『イスラム世界の常識と非常識』(淡交社, 1999 年), 『イスラム世界論 トリックスターとしての神』(東京大学出版会, 2002 年), 『イスラム世界の経済史』(NTT 出版, 2005 年), 『「イスラム vs. 西欧」の近代』(講談社現代新書, 2006 年) などである。
- (4) 2002 年からは、日本人研究者としては初めて、エジプトでの社会調査を許されたことを契機に、エジプト中央統計局と合同で、エジプト都市部・農村部の世帯調査を実施し、そこから得られたマイクロ統計データに基づいてエジプト社会を分析するとともに、その結果をセンサスなど、政府発行のマクロ統計データ、ならびに地理情報システム(GIS) 関係地理情報と融合することによってエジプト地域研究の新しい分析方法を模索している。その成果は、" Internal Migration Patterns to Greater Cairo-Linking three kinds of data: census, household survey, and GIS, " (with Ali ELshazly and Erina Iwasaki) Mediterranean World XVII, the Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University, Tokyo, 2004 年, 「エジプトにおけるマイグレーションと地域類型 - 三種類のデータ (センサス統計・世帯調査データ・地理情報) を接合する試み」(岩崎えり奈と共著)『東洋文化研究所紀要』第 147 冊, 2005 年, " Migration, Regional Diversity, and Residential Development on the Edge of Greater Cairo-Linking Three Kinds of Data - Census, Household-Survey and Geographical Data - with GIS ", (with Erina Iwasaki, Ali ELshazly, and Yutaka Goto), Atsuyuki Okabe(ed.), *GIS - Based Studies in the Humanities and Social Sciences*, Taylor & Francis, Oxford, 2005 などである。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書

[単著]

『私的土地所有権とエジプト社会』 創文社, 1993年, xxxiii+668+35頁。

『文明としてのイスラム-多元的社会叙述の試み』 東京大学出版会, 1995年, 248+28頁。

『イスラム世界の危機と改革』(世界史リブレット(37)) 山川出版社, 1997年, 90頁。

『アブー・スィネータ村の醜聞 裁判文書からみたエジプトの村社会』 創文社, 1997年, 240+23頁

『イスラム世界の常識と非常識』 淡交社, 1999年, 239頁。

『イスラム世界の常識と非常識』(韓国語訳) Godo Publishing Co., Korea, 2001年, 250頁。

『イスラム世界論 トリックスターとしての神』 東京大学出版会, 2002年, 227+23頁。

『イスラム世界の経済史』 NTT出版, 2005年, 264+19頁

『「イスラム vs. 西欧」の近代』 講談社現代新書, 2006年, 205頁

[編著・論文集]

『都市と農村[]』 板垣雄三・佐藤次高編 『概説イスラム史』 有斐閣選書, 1986年, 231-259頁。

『文献解題 東アラブ近現代史研究』(編著) アジア経済研究所, 1989年, 134頁。

『エジプト現代史におけるムスリム同胞団』 小杉泰編 『ムスリム同胞団-研究の課題と展望』 国際大学中東地域研究科, 1989年, 23-34頁。

『近代エジプト農民運動についての覚書 農民運動からみた近代エジプト社会の変容過程』 長沢栄治編 『東アラブ社会変容の構図』 アジア経済研究所, 1990年, 261-297頁。

『エジプト農民の権力観』 <シリーズ> 『世界史への問い 第6巻民衆変化』 岩波書店, 1990年, 75-99頁。

『地域からの世界史 8 西アジア<下>』(永田雄三との共著) 朝日新聞社, 1993年, 232頁。

『イスラムの世界 パスク・イスラミカの世紀』(鈴木董他との共著) 講談社(現代新書), 1993年, 273頁。

『イスラムの世界 イスラム復興はなるか』(坂本勉他との共著) 講談社(現代新書), 1993年, 270頁。

『エジプトにおける社会経済変動と空間編成の変容 近代エジプト「定期市」研究序説』 伊能武次編 『中東における政治経済変動の諸相』 アジア経済研究所, 1993年, 75-124頁。

『地域世界と国民国家 アラブ』 歴史学研究会編 『国民国家を問う』 青木書店, 1994年, 87-104頁。

『民族・国家・地域 「ナイル峡谷」の概念をめぐる』 『中東の民族と民族主義 資料と分析視角』 所内資料(地域研究部 No.6-3) アジア経済研究所, 1995年, 41-49頁。

『オスマン帝国の「近代化」 アラブ世界を中心に』 歴史学研究会編 『講座世界史 3 民族と国家 自覚と抵抗』 東京大学出版会, 1995年, 201-231頁。

『エジプト地域研究法』 『総観地理学講座』 2巻, 朝倉書店, 1997年, 54-58頁。

『「周縁」からみた近代エジプト 空間と歴史認識をめぐる一考察』 『岩波講座 世界歴史』 21巻 『イスラム世界とアフリカ』 岩波書店, 1998年, 169-188頁。

『イスラム世界における血の紐帯と社会秩序 エジプト農村社会を事例に』 比較法史学会 『比較法史研究 思想・制度・社会』 未来社, 1998年, 65-84頁。

『序』, 『アレクサンドリアの憂愁 近代地中海世界の光と影』 歴史学研究会編 『地中海世界史 3 ネットワークのなかの地中海』 青木書店, 1999年, 13-28頁, 202-229頁。

『イスラム世界における血の紐帯と社会秩序 エジプト農村社会を事例に』 歴史学研究会編 『紛争と訴訟の文化史』 青木書店, 2000年, 135-163頁。

『イスラム社会における法と経済 所有システムの観点から』 法文化学会編 『法文化叢書 歴史・比較・情報』 『混沌のなかの所有』 国際書院, 2000年, 143-164頁。

『近代のアラブ社会』 佐藤次高編 『西アジア史 アラブ』 新版世界各国史, 山川出版社, 2002年3月, 395-451頁。

- 「世界経済史におけるイスラームの位置」 社会経済史学会編 『社会経済史学の課題と展望』(社会経済史学会創立 70 周年記念) 2002 年 8 月, 157-169 頁。
- 「タージルとウラマー」「ダウラ」『キーワードで読むイスラーム』 7, 8 章, 山川出版社, 2003 年, 115-135, 136-156 頁。
- 「経済学とイスラーム地域研究」 佐藤次高編 『イスラーム地域研究の可能性』(イスラーム地域研究叢書) 東京大学出版会, 2003 年, 101-132 頁。
- 「イスラーム市場社会の歴史的構造」 三浦徹ほか編 『比較史のアジア 所有・契約・市場・構成』(イスラーム地域研究叢書) 東京大学出版会, 2004 年, 183-206 頁。
- 「ファラーティー(falati) 考 19 世紀後半エジプトの「浮浪者」(mutasharrid) 」 三笠宮殿下米寿記念刊行会編 『三笠宮殿下米寿記念論集』 刀水書房, 2004 年
- 「文明化と暴力 アラブ世界」 山内進・加藤博・新田一郎編 『暴力 - 比較文明史的考察』 東京大学出版会, 2005 年, 165-188 頁
- 「イスラーム世界の女性 言説と実態の狭間で」 加藤博編 『イスラームの性と文化』(イスラーム地域研究叢書) 東京大学出版会, 2005 年, 3-21 頁
- "Migration, Regional Diversity, and Residential Development on the Edge of Greater Cairo- Linking Three Kinds of Data - Census, Household-Survey and Geographical Data - with GIS", (with Erina Iwasaki, Ali ELshazly, and Yutaka Goto), Atsuyuki Okabe(ed.), *GIS - Based Studies in the Humanities and Social Sciences*, Taylor & Francis, Oxford, 2005, pp.191-209

(b) 論文(査読つき論文には*)

- * 「中世エジプトの貨幣政策」 『一橋論叢』 76 巻 6 号, 1976 年, 107-115 頁。
- * 「貨幣史からみた後期中世エジプト社会 E・アシュートルの中世エジプト物価史研究に寄せて」 『社会経済史』 43 巻 1 号, 1977 年, 73-88 頁。
- 「19 世紀エジプト土地制度史研究 学界事情と資料紹介」 『一橋論叢』 84 巻 6 号, 1980 年, 31-47 頁。
- 「19 世紀前半のエジプト土地・税制度」 一橋大学地中海研究会編 『論文集・地中海地域における集落形成の諸問題』 1980 年, 1-22 頁。
- * 「19 世紀後半のエジプト土地・税制度」 『オリエント』 23 巻 1 号, 1980 年, 1-22 頁。
- * "Egyptian Village Community under Muhammad 'Ali's Rule-An Annotation of Qanun al-Filaha" , *Orient*, Vol.xvi, 1980, pp.183-222.
- 「カフル・シュブラフール村の村方騒動 19 世紀エジプトにおける私的土地所有権の確立とイズバ農民」 『東洋文化研究所紀要』 87 冊, 1981 年, 51-116 頁。
- 「エジプトにおける私的土地所有権の確立」 『東洋文化研究所紀要』 91 冊, 1982 年, 1-179 頁。
- "A Riot in the Village of Kafr Shubrahur" , The Mediterranean Studies Research Group ed., *Population Mobility in the Mediterranean World. Studies in the Historical and Contemporary Aspects*, Hitotsubashi University, 1982, pp.165-181.
- 「19 世紀中葉におけるエジプト灌漑行政」 『一橋論叢』 88 巻 5 号, 1982 年, 61-78 頁。
- * 「エジプト農村社会における村落有力者層 Leonard Binder の Second Stratum 論をめぐって」 『オリエント』 24 巻 2 号, 1982 年, 79-95 頁。
- 「近代エジプト農村社会研究のためのノート」 『東洋文化』 63 号, 1983 年, 211-236 頁。
- 「1863 年公布二勅令にみる 19 世紀中葉エジプト農民の土地喪失過程」 一橋大学地中海研究会編 『地中海論集』

』, 1984年, 187-208頁。

- * 「エジプト近代史研究動向 オラービー運動研究を題材として」『オリエント』27巻2号, 1985年, 108-117頁。
- 「アブー・スィネータ村醜聞 19世紀中葉エジプト, 村落有力者層の権力基盤」『東洋文化研究所紀要』99冊, 1986年, 153-245頁。
- * 「19世紀エジプトにおける税制度 その1.不動産賃貸借税」『イスラム世界』25-26号, 1986年, 70-102頁。
- 「1863年公布二勅令にみる19世紀中葉エジプト農民の土地喪失過程(続)」一橋大学地中海研究会編『地中海論集』, 1986年, 193-222頁。
- 「19世紀中葉エジプトにおける税制度 その2.通行・市場税」『東洋文化研究所紀要』103冊, 1987年, 1-69頁。
- 「エジプト現代史」『国際大学中東研究所年報・現代中東の知的世界』創刊号, 1987年, 4-14頁。
- * 「エジプト・オラービー運動に関する覚書 軍隊・農民・立憲運動」『歴史評論』452号, 1987年, 49-59頁。
- 「19世紀中葉エジプトにおけるさまざまな土地範疇 リズカ地について」『一橋論叢』98巻6号, 1987年, 157-174頁。
- 「エジプト農村史研究序説 聞き取り『カフル・シュブラフール村の村方運動』『アブー・スィネータ村醜聞』」『東洋文化研究所紀要』106冊, 1988年, 269-338頁。
- "Liquidity and Publicity in Urban Society in the Middle of Nineteenth Century in Egypt - As Reflected in Some Unpublished Documents in Relation to the Rent Tax on Real Properties", The Mediterranean Studies Research Group ed., *Studies in the Mediterranean World. Past and Present XI*, Hitotsubashi University, 1988, pp.43-59.
- 「19世紀中葉エジプトにおける税制度 その3. 土地税」『東洋文化研究所紀要』109冊, 1989年, 35-107頁。
- 「国民軍の編成と遊牧民反乱 エジプト近代史における陰画としての遊牧民」『地中海論集』一橋大学地中海研究会編, 1989年, 11-20頁。
- "Urban and Rural Societies in Mid-19th Century Egypt-As Reflected in Some Unpublished Documents Relating to Taxation Systems", *The Proceedings of International Conference on Urbanism in Islam*, vol.3, The Middle Eastern Culture Center, Tokyo, 1989, pp.247-272.
- * "Nomads and Farmers in the Process of the Modernization of Egypt", *Orient*, vol. XXVI, 1990, pp.78-85. 「情報と中東イスラム世界」『一橋論叢』106巻3号, 1991年, 33-52頁。
- "The Data on Periodical (Weekly) Market at the End of the 19th Century in Egypt The Cases of Qaliubiya, Sharqiya, and Daqahliya Provinces", The Mediterranean Studies Research Group ed., *Mediterranean world XIII*, Hitotsubashi University, 1992, pp.77-114.
- * 「エジプトにおける「民族」と「国民国家」」『歴史学研究』633号, 1992年, 13-25頁。
- * 「「徴兵免除」嘆願文書にみる19世紀中葉エジプトの農村社会」『東洋史研究』51巻2号, 1992年, 77-99頁。
- 「近代エジプトの遊牧民 「オマル・マスリーの反乱」聞き取り調査ノート」『一橋論叢』110巻4号, 1993年, 13-28頁。
- "The Egyptian Rural Society in the Mid-Nineteenth Century as Reflected in the Document on Petition for the Exemption from Military Service", The Mediterranean Studies Research Group ed., *Mediterranean World XIV*, Hitotsubashi University, 1995, pp.59-70.
- 「イスラム政治における公正と秩序 中心なき政治原理」『一橋論叢』114巻4号, 1995年, 18-30頁。
- 「近代エジプトにおけるギリシア人とシリア人 エジプトの少数集団に関する覚書」『一橋論叢』116巻4号, 1996年, 112-129頁。
- * 「「市場社会」としてのイスラム社会」『社会経済史学』63巻2号, 1997年, 81-100頁。
- 「遊牧民 Minority or Vagabond? 近代エジプトにおける国家と遊牧民」『上智アジア学』14号, 上智大学アジア

文化研究所, 1997年, 61-73頁。

* 「砂漠に消えた「革命」 近代エジプトの遊牧民「革命」」『地域研究論集』1, 国立民族学博物館・地域研究企画交流センター, 1997年, 110-129頁。

"Alexandrian Melancholy - The Light and Shadow of the Modern Mediterranean World", The Mediterranean Studies Group ed., *Mediterranean World XV*, Hitotsubashi University, 1998, pp.99-123.

* 「「賻金」からみた中世イスラム世界の貨幣事情」『歴史学研究』711号, 1998年, 72-78頁。

* 「"Old Wine, New Bottle" or "Old Wine, Old Bottle" ? (岡野内正 「経済学と日本の中東研究」をめぐって)」『日本中東学会年報』14号, 1999年, 275-284頁。

"The Bedouin in Egyptian National Identity: Minority or Vagabond ? ", Usuki Akira (ed.) *State Formation and Ethnic Relations in the Middle East, JCAS Symposium Series 5*, the Japan Center for Area Studies (JCAS), National Museum of Ethnology, Osaka, Japan, 2001, pp.173-185.

"Blood Linkage and Social Order in Egyptian Village Society, " The Mediterranean Studies Group ed., *Mediterranean World XVI*, Hitotsubashi University, Tokyo, 2001, pp.1-14.

「イスラムと開発」『国際協力研究』国際協力事業団, 18巻1号, 2002年, 1-7頁。

「地域研究への誘いー地中海世界を材料に」『一橋論叢』127巻4号, 2002年, 53-67頁。

* 「イスラム史は何を明らかにしたか」『歴史評論』歴史科学協議会, 630号, 2002年10月, 52-62頁。

「近代イスラムにとってのヨーロッパ」『別冊 環』「ヨーロッパとは何か」藤原書店, 2003年, 260-267頁。

* "Islam and Development," *Technology and Development*, January 2003, JICA, pp.5-9.

* 「エジプトにおける「近代統計」と国民国家形成」『現代の中東』34号, 2003年1月, 1-20頁。

「イスラム世界における「会社」 なぜイスラム世界は資本主義化に乗り遅れたのか」『大航海』48号「特集 会社とは何か？」新書館, 2003年, 176-185頁。

"Attempt of linkage of the two approaches: Household survey & GIS-Migration to the Greater Cairo" (アリ・エルシャズリ, 岩崎えり奈, 後藤寛と共著) 『地理情報システム学会講演論文集』第12号, 2003年, 111-114頁。

"Internal Migration Patterns to Greater Cairo-Linking Three Kinds of Data: Census, Household Survey, and GIS, " (アリ・エルシャズリ, 岩崎えり奈と共著) The Mediterranean Studies Group ed., *Mediterranean World XVII*, Hitotsubashi University, Tokyo, 2004年, pp.173-212 +40.

"A Historical Study of the Market Society - Reflected in the Waqf System in Muslim Societies", AJAMES (日本東学会年報), 20-1号, 2004年, 47-63頁

「エジプトにおけるマイグレーションと地域類型 - 三種類のデータ (センサス統計・世帯調査データ・地理情報) を接合する試み」『東洋文化研究所紀要』第147冊, 2005年3月, 1 - 65頁

「イスラム社会にニートはいるか？」『大航海』58号「特集 ニート 転換する現代文明」新書館, 2006年, 136 - 141頁。

"Cairo and Alexandria at the Beginning of the 20th Century: An Analysis Based on Population and Education Censuses for 1907/8", *Mediterranean World*, the Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University, Tokyo, 2006, pp. 323-368.

(c) 翻訳

「マフムード・アブデル＝ファディール 「産油国への労働移動とインフォーマル・セクター」 鈴木弘明編 『エジプト経済と労働移動』 アジア経済研究所, 1986年, 197-213頁。

「ヨーロッパとイスラム-ムハンマド・アブドゥ, ガブリエル・アトー論争」 東洋大学 100周年記念論文集 『近代日本

文化の歴史と論理』1987年,123-198頁。

クロード・カーエン『比較社会経済史 イスラム・ビザンツ・西ヨーロッパ』(渡辺金一との共訳)歴史学叢書,創文社,1988年,135+14頁。

アリー・バラカート『近代エジプトにおける農民反乱 近代エジプト社会経済史研究入門』(長沢栄治との共訳)アジア経済研究所,1991年,x+200頁。

(d) その他

エッセイ「自らの「イスラームとは何か」を問う」『アジ研ワールド・トレンド』(特集/私のイスラーム,あなたのイスラーム)No.85-2,2002年,2-3頁。

対談記録「グローバル化と多文化共生 文明間の対話に関する考察」(対ハサン・ハナフィー氏)『国際交流』国際交流基金,97号,2002年,16-27頁。

書評「中沢新一『緑の資本論』」『歴史学研究』769号,2002年,54-55頁。

書評「E・W・サイード『戦争とプロパガンダ』」『戦争とプロパガンダ2 パレスチナは,いま』『歴史学研究』769号,2002年,56-57頁。

エッセイ「モデルとしての「イスラーム世界」」『UP』364号,東京大学出版会,2003年,1-5頁。

対談「国際社会に何が起きているのか」中東調査会編『イラク問題と日本人』明石書店,2003年,11-30頁。

講演「グローバル化とイスラーム世界」『房総史学』43号,千葉県高等学校教育委員会・歴史部会,2003年,6-17頁。

書評「黒田明伸『貨幣システムの世界史 非対称性をよむ』」『史学雑誌』史学会,112編9号,2003年,98-104頁。

書評「ライラ・アハメド著(林正雄ほか訳)『イスラームにおける女性とジェンダー 近代論争の歴史的根源』」『社会経済史学』社会経済史学69巻3号,2003年,125-127頁。

シンポジウム「21世紀の世界史的な位置づけ」猪口孝編『今われわれが踏み込みつつある世界は…2000-2050』藤原書店,2003年,132-146頁,192-197頁。

エッセイ「現代文明批判の手段としての「イスラーム世界」-羽田正『イスラーム世界の創造』に触発されて」『UP』396号,東京大学出版会,2005年10月,31-37頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表

AFMA (Asian Federation for Middle East Studies Associations) 第4回大会(中国・北京)での基調報告,2002年8月1-3日

第1回世界中東学会大会(WOCMES)(ドイツ・マインツ)でのSSRC(Social Science Research Council)主催「世界の東研究」パネルでの報告,2002年9月8-11日

"Modern Egypt in Nexus Reconsidering the Modernity in Egypt", The 11th International Conference of Korea Association of the Middle East Studies, Seoul, October 12, 2002.

「地域レベルにおける近代化 オスマン帝国圏」第2回日韓・韓日歴史家会議『世界史の中の近代化・現代化』「第セッション 地域レベルにおける近代化・現代化」日韓歴史家会議組織委員会・国際歴史学委員会日本国内委員会,2002年10月19日

"Migration to the Greater Cairo-Attempt of linkage of the two approaches: Household survey & GIS", 第19回

本中東学会年次大会, 2003年5月11日

「世帯調査とGISの接合の試み 大カイロへのマイグレーション」地理情報システム学会第12回研究発表大会, 2003年10月21日。

「Migration and Regional Categorization in Egypt」第20回日本中東学会年次大会(明治大学), 2004年5月9日

"Modern Alexandria: A Mediterranean City" 一橋大学地中海研究会主催・国際ワークショップ "Diversity and Connectivity in the Mediterranean World" イタリア・ヴェネツィア, 2004年9月10-12日

「パネル イスラムの経済思想の視点から」経済思想シンポジウム 『経済思想の文化的背景』京都大学, 2004年10月11日。

界間『文明の対話』シンポジウム(イラン)司会, 報告, 2004年11月27, 28日。

一橋大学地中海研究会主催・国際セミナー "Diversity and Connectivity in the Mediterranean World" イタリア・ヴェネツィア, 平成16年9月10-12日。

日本外務省・イラン外務省・バハレーン外務省共催 「日本・イスラム世界間『文明の対話』」シンポジウム(イラン)での日本団の企画, 司会, 報告, 平成16年11月27, 28日。

文部科学省・科学研究費補助金基盤研究(A)(2) 「エジプト社会経済関係基礎データの蓄積と学際的分析 - 世帯調査とGISの接合を中心に」主催・国際ワークショップ 「エジプトにおける人口センサス - その歴史と現状」の企画・組織・司会, 一橋大学・佐野書院, 平成17年2月2日。

文部科学省・科学研究費補助金基盤研究(A)(1) 「地中海島嶼社会のマイクロエコロジー構造と海域研究の方法と視角」主催・国際ワークショップ 「地中海の島嶼社会」の企画・組織・司会, 一橋大学・佐野書院, 平成17年10月8日。

XIV International Economic History Congress "Complementary Relationship among Monies in History", Some Comments from a Socio-economic Historian of Egypt, August 24 in Helsinki でのコメント

The 4th Workshop by the Mediterranean Studies Group of Hitotsubashi University, "Diversity and Connectivity in the Mediterranean World", Hiroshi Kato & Preliminary Report on Field Study of Village "Rashda" in Dakhla Oasis (with Erina Iwasaki), 28 August, 2006, Hotel Mena House, Cairo, Egypt での司会, 報告

(b) 国内研究プロジェクト

[研究代表者]

「地中海世界における文化融合と文化対立 民族主義と多文化主義のゆくえ」科学研究費補助金基盤研究(A)(1) 2000-2003年度。

「エジプトにおける市場化と社会変動 カイロ貧困地区での家計調査とそれに基づく定量的分析」平和中島財団, 2003年4月-2004年3月。

「エジプト農村社会の変容に関する多元的実証的研究 『アブー・スィネータ村の醜聞』再考」三菱財団人文科学研究助成, 研究代表者, 2003年-2004年。

「エジプト社会経済関係基礎データの蓄積と学際的分析 世帯調査とGISの接合を中心に」一橋大学大学院経済学研究科・現代経済リサーチ・ネットワーク・プログラム(RNP)プロジェクト, 2004-2006年度。

「エジプト社会経済関係基礎データの蓄積と学際的分析 世帯調査とGISの接合を中心に」科学研究費補助金基盤研究(A)(2), 2004-2008年度。

文科省・世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業 「アジアのなかの中東: 経済と法を中心に」2006-2011年度。

[研究分担者その他]

「現代イスラーム世界の動態的研究」 文部省科学研究費補助金創成的基礎研究, 1997-2002 年度, 研究分担者
(代表: 佐藤次高)

「アジアにおける市場化, 開放経済化と社会変動 下層・辺縁層の経済行為の分析を中心に」 一橋大学大学院経済学研究科・現代経済リサーチ・ネットワーク・プログラム (RNP) プロジェクト, 2000-2002 年度, 学内アソシエイト (代表: 佐藤宏)

「交錯する紛争と秩序 暴力の比較文明的的研究」 三菱財団人文科学研究助成, 2001-2002 年度, 研究分担者
(代表: 山内進)

「地中海世界経済システムの形成メカニズムと経済史の方法」 一橋大学大学院経済学研究科・現代経済リサーチ・ネットワーク・プログラム (RNP) プロジェクト, 2001-2003 年度, 学内アソシエイト (代表: 大月康弘)

「アジア地域における歴史地理 GIS の構築」 科学研究費補助金基盤研究(B) (1), 2002-2004 年度, 研究分担者(代表: 後藤寛)

「日本・中東イスラーム関係の再構築 中東イスラーム地域研究の新地平」 科学研究費補助金基盤研究(B) (1), 2002-2004 年度, 研究分担者 (代表: 白杵陽)

「地中海島嶼社会のマイクロエコロジー構造と海域研究の方法と視角」 (代表: 坂内徳明) 文部省科学研究費補助金基盤研究(A) (1), 2004-2008 年度

(c) 国際研究プロジェクト

[研究代表者]

"The Comparative Study between Egypt and China on the Spatial Mobility", the Research Project by Hitotsubashi University (Graduate School of Economics) in Collaboration with Central Agency of People's Mobility and Statistics (CAPMAS), 2001-2004.

"The Household Survey in Egypt and the Interdisciplinary Analysis Based on its Data", the Research Project, by Hitotsubashi University (Graduate School of Economics) in Collaboration with Central Agency of People's Mobility and Statistics (CAPMAS), 2004-2008.

[研究分担者その他]

「世界の中東研究」 SSRC (Social Science Research Council) 主催, 2001-2003 年, 研究分担者

C. 受賞

流沙海西奨学会賞, 流沙海西奨学会, 1980 年

日本オリエント学会奨励賞, 日本オリエント学会, 1985 年

発展途上国研究奨励賞, アジア経済研究所, 1993 年

6. 学内行政

(a) 部所長・評議員等

評議員 (1999 年 4 月-2002 年 3 月)

(b) 学内委員会

中東・アフリカとの国際交流専門委員会委員 (1992 年 4 月-)

(c) 課外活動顧問

一橋大学端艇部顧問 (1998年9月-2004年8月)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

成城大学経済学部非常勤講師 (1997年9月-)

大東文化大学国際関係学部 (大学院) 非常勤講師 (1998年4月-)

お茶の水大学文教育学部非常勤講師 (2002年4月-9月)

共立女子大学文芸学部非常勤講師 (2003年4月-)

九州大学文学部非常勤講師 (集中講義 2004年7月)

(b) 参加学会および学術活動

日本中東学会 (1997年-理事, 2000-2003年会長)

日本イスラム協会 (評議員)

日本オリエント学会 (1994年-1996年理事)

歴史学研究会 (1997年-2000年編集長)

(d) その他

財団法人・石油産業活性化センター「アジアのエネルギー・セキュリティ」日米共同研究会委員 (2001年11月-2003年3月)

エフイーシー国際親善協会・日中東文化経済委員会委員 (2005年7月-)

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

国立民族学博物館地域研究企画交流センター運営委員会 (委員) (2000年8月-2003年7月)

国立民族学博物館地域研究企画交流センター外部評価委員会 (委員) (2003年4月-2004年3月)

参議院国際問題調査会「イスラム世界と日本の対応」(参考人) (2004年2月18日)

独立行政法人・日本学術振興会・特別研究員等審査会専門委員 (2004年-)

9. 一般的言論活動

「個と社会規範 日本とイスラム社会を比較して」基調報告, 第8回中東を知るセミナー, 中東調査会, 2002年7月30日。

「イスラム社会の現状 (1)農村社会, (2)都市社会」千葉市民文化大学講義, 2002年10月11, 18日。

「イスラムと現代社会」中東調査会「中東塾」公開講座, 2002年11月29日。

「世界経済のなかのイスラーム」朝日カルチャーセンター, 2003年10月-2004年3月。

「文明としてのイスラーム 宗教と経済」日本中東学会講演会, 2003年11月1日。

「なぜイスラーム世界は近代において経済で遅れをとったのか イスラームが問題なのか?」国際交流基金・中東理解講座『イスラームが問題なのか? 近代化との関係を考える』2004年3月10日。

「イスラム社会の常識・非常識」小平市民講座, 小川西町公民館, 2004年5月11日-7月20日。

「中東世界の経済社会 歴史的視点から」国分寺市民講座『外国を知る講座:知られざる中東』光公民館, 2004年6月23日。

- 「中東問題の歴史的・構造的背景」国際交流基金・中東理解講座『岐路に立つ中東 国家・民族・宗教』, 2004年9月29日。
- 「世界経済史のなかのイスラーム世界」2004年慶応義塾大学言語文化研究所公開講座『世界史におけるイスラーム世界』2004年11月6日。
- 「中東とはどういう世界か」「中東ではなぜ戦争・紛争が絶えないのか」日野市国際講座『中東理解講座』2005年2月12日, 19日。
- 「概説:中東にとっての近代」朝日カルチャーセンター・横浜『新しい世界史 中東近代の光と影 - 伝統と近代の相克 -』2005年4月2日。
- 「岐路に立つ中東 - パレスチナ/イスラエル, イラクを中心に」平成17年度一橋大学春季公開講座『紛争の地域史』2005年5月7日。
- 「基調講演」「総括」如水会・第60期一橋フォーラム『イスラムと世界』2005年, 9月13日, 11月29日。
- 「文明としてのイスラム」NHK文化センター青山教室・世界文明紀行, 2005年11月4日 - 2006年1月6日 (7回)。
- 「21世紀とイスラム」(7月22日)「欧米のイスラム観」(7月29日)「日本人のイスラム観」(8月19日)「イスラムとメディア」(9月16日)朝日カルチャーセンター公開講座『イスラムvs.西欧』の近代 なぜイスラム教徒は近代文明に反発するのか』2006年。
- 「ナイル - 地域をつむぐ川」国際交流基金・中東理解講座『エジプトはナイルの賜物:歴史の多層性と地域の多様性』, 2006年10月4日。
- 「イスラムにおける経済:信仰と金儲け」長野市民教養講座『イスラム世界の統一性と多様性 - 中東を中心に』2006年10月20日。
- 「イスラム・キリスト教・ユダヤ教」(10月7日)「近代におけるイスラムと欧米」(11月4日)「イスラム政治運動と欧米」(12月2日)JTBカルチャーサロン講座『イスラム世界と欧米:誤解の根源』2006年
- 「概説:戦間期中の東中」朝日カルチャーセンター横浜『現代中東が作られた時代 - 大戦間期中の東中』2006年10月14日。
- 「ナポレオンのエジプト遠征」(2月3日)「近代ヨーロッパ文明とイスラーム」(2月17日)朝日カルチャーセンター横浜『地中海世界とイスラーム』2007年。